

議案第 7 号

北名古屋市消防団員等公務災害補償条例の制定について

北名古屋市消防団員等公務災害補償条例を別紙のとおり定めるものとする。

令和 8 年 2 月 2 0 日提出

北名古屋市長 太 田 考 則

提案理由

この案を提出するのは、条例の形式を基準となる政令を引用する方式に改めることで国の基準の変更に遅滞なく対応するため、本条例を定める必要があるからである。

北名古屋市消防団員等公務災害補償条例

北名古屋市消防団員等公務災害補償条例（平成１８年北名古屋市条例第１４２号）の全部を改正する。

（趣旨）

第１条 この条例は、消防組織法（昭和２２年法律第２２６号）第２４条第１項の規定による非常勤消防団員に係る損害補償及び消防法（昭和２３年法律第１８６号）第３６条の３の規定による消防作業に従事した者又は救急業務に協力した者に係る損害補償並びに水防法（昭和２４年法律第１９３号）第６条の２第１項の規定による非常勤の水防団長又は水防団員（以下「非常勤水防団員」という。）に係る損害補償及び同法第４５条の規定による水防に従事した者に係る損害補償並びに災害対策基本法（昭和３６年法律第２２３号）第８４条第１項（原子力災害対策特別措置法（平成１１年法律第１５６号）第２８条第１項の規定により読み替えて適用される場合を含む。）の規定による応急措置の業務に従事した者に係る損害補償の種類、金額、支給方法その他損害補償に関し必要な事項を定めるものとする。

（損害補償を受ける権利）

第２条 非常勤消防団員若しくは非常勤水防団員が公務により死亡し、負傷し、若しくは疾病にかかり、若しくは公務による負傷若しくは疾病により死亡し、若しくは障害の状態となった場合、又は消防法第２５条第１項若しくは第２項（これらの規定を同法第３６条第８項において準用する場合を含む。）若しくは第２９条第５項（同法第３０条の２及び第３６条第８項において準用する場合を含む。）の規定により消防作業に従事した者（以下「消防作業従事者」という。）、同法第３５条の１０第１項の規定により救急業務に協力した者（以下「救急業務協力者」という。）又は水防法第２４条の規定により水防に従事した者（以下「水防従事者」という。）若しくは災害対策基本法第６５条第１項（同条第３項（原子力災害対策特別措置法第２８条第２項の規定により読み替えて適用される場合を含む。）において準用する場合及び原子力災害対策

特別措置法第28条第2項の規定により読み替えて適用される場合を含む。)の規定若しくは災害対策基本法第65条第2項において準用する同法第63条第2項の規定による応急措置の業務に従事した者(以下「応急措置従事者」という。))が消防作業若しくは水防(以下「消防作業等」という。))に従事し、若しくは救急業務に協力し、又は応急措置の業務に従事したことにより死亡し、負傷し、若しくは疾病にかかり、又は消防作業等に従事し、若しくは救急業務に協力し、又は応急措置の業務に従事したことにより負傷若しくは疾病により死亡し、若しくは障害の状態となったときは、市長は、損害補償を受けるべき者に対して、その者がこの条例によって損害補償を受ける権利を有する旨を速やかに通知しなければならない。

第3条 非常勤消防団員又は非常勤水防団員は、その身分を失った場合においても、損害補償を受ける権利は変更されることはない。

2 損害補償を受ける権利は、譲り渡し、担保に供し、又は差し押さえることはできない。

(損害補償の種類、金額、支給方法等)

第4条 損害補償の種類、金額、支給方法その他損害補償に関して必要な事項については、この条例で定めるもののほか、非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令(昭和31年政令第335号)の規定の例による。

(審査請求)

第5条 市の行う非常勤消防団員、非常勤水防団員、消防作業従事者、水防従事者又は応急措置従事者(以下「非常勤消防団員等」という。))の死亡、負傷又は疾病が公務又は消防作業等に従事し、若しくは救急業務に協力し、又は応急措置の業務に従事したことによるものであるかどうかの認定、療養の方法、損害補償の金額の決定その他損害補償の実施について不服のある者は、市長に対して、審査請求をすることができる。

(報告、出頭等)

第6条 市は、審査又は損害補償の実施のため必要があると認めるときは、損害補償を受けようとする者又はその他の関係人に対して、報告をさせ、

文書を提出させ、出頭を命じ、又は医師の診断若しくは検案を受けさせることができる。

（損害補償費の返還要求）

第7条 市は、非常勤消防団員等に対してこの条例の規定により、損害補償に要する費用を支給した後において、その支給額に錯誤があったことが判明したときは、当該非常勤消防団員等に対して、その錯誤に係る額の返還を求めることができる。

2 偽りその他不正の手段により損害補償を受けた者があるときは、市は、その損害補償に要した費用に相当する金額の全部又は一部をその者から返還させることができる。

（雑則）

第8条 この条例に定めるもののほか、この条例の実施に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。